I. 神奈川県内　c. 海成・河成堆積物

（1）シロウリガイ化石を含む三浦層群池子層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号　KPM-NP 45
標本名　シロウリガイ化石を含む三浦層群池子層 露頭剥ぎ取り標本
大きさ　幅 3.45 m, 高さ 1.65 m
重量　展示中のため不明
形状、展示・収納状況　板に固定した状態で常設展示（神奈川展示室）
採集地　神奈川県逗子市池子
緯度・経度　N35º18'35", E139º36'18"
標高　26 m
露頭の種別と現状　沢沿いの自然崖、現状不明
露頭面の向き、傾斜　東向き、傾斜不明、層理面にほぼ垂直な断面に相当する
走向・傾斜　およそ東西の走向、南に約 10° 傾斜
堆積物の種別　火砕質粗粒砂岩（海成層）
年代　鮮新世（三浦層群池子層）
採集作業者　森山哲和（考古造形研究所）
採集立会い者　松島義章、平田大二
採集日　1988 年 12 月 11 日
その他　鎮西（1991）の産地 1（逗子高校テニスコート南の小谷）の北端部の露頭と同一箇所。

関連文献等

鎮西清高（1991）逗子市池子地区のシロウリガイ類化石の産状と化石を含む堆積物 . 逗子市文化財調査報告書第 14 集逗子市池子のシロウリガイ類化石 . 26-50.
逗子市教育委員会（1991）逗子市文化財調査報告書第 14 集　逗子市池子のシロウリガイ類化石 . 87pp.

解説　剥ぎ取り標本が採集された露頭は、シロウリガイの多様な産状を保存、観察できる露頭として知られていた場所である。1988 年から 1991 年にかけて、研究者グループによる逗子市池子層シロウリガイ類化石の調査がなされ、逗子市教育委員会（1991）に成果の詳細が報告されている。剥ぎ取り標本を採集した露頭面は、層理面にほぼ垂直な断面に相当する。このため、シロウリガイの堆積状況（産状）をよく示している。

堆積物は、軽石や凝灰質の粗粒砂からなる。下部に層厚 15 ～ 20 cm ほどの貝殻が密集層がある。この密集層は約 10° で傾き、上位の層に比して急である。密集層中では殻が互いに接するように積み重なり、そのほとんどが片殻である。両殻がそろった個体はごく少なく、わずか 1.8 % である（鎮西 , 1991）。

密集層の上位では、貝殻が横に連続した集積層やレンズ状の層と、貝殻を多くは含まない粗粒砂層の互層となる。片殻の集積が多いが、両殻そろった個体も見られる。両殻そろった個体も層理面に対して直立したものはなく、ほとんどのものが横になった状態である。一部に生痕（burrow) がある。

生息姿勢を保った両殻の個体は認められないこと、層理面上に配列していることから、このシロウリガイの密集層は、いわゆるシロウリガイコロニーそのものではなく、水流の影響を受けた再配列したものと推測される。

記録者　田口公則

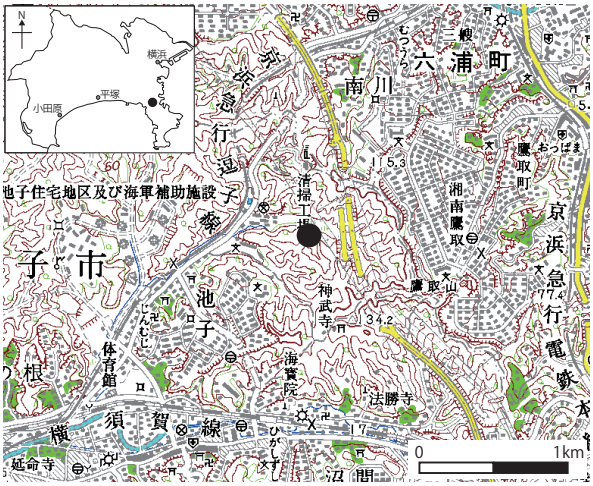

図 Ic-1-1. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）.

図 Ic-1-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭.

図 Ic-1-3. 剥ぎ取り標本の採集の様子.

図 Ic-1-4. 剥ぎ取り標本の展示の様子（神奈川展示室）.

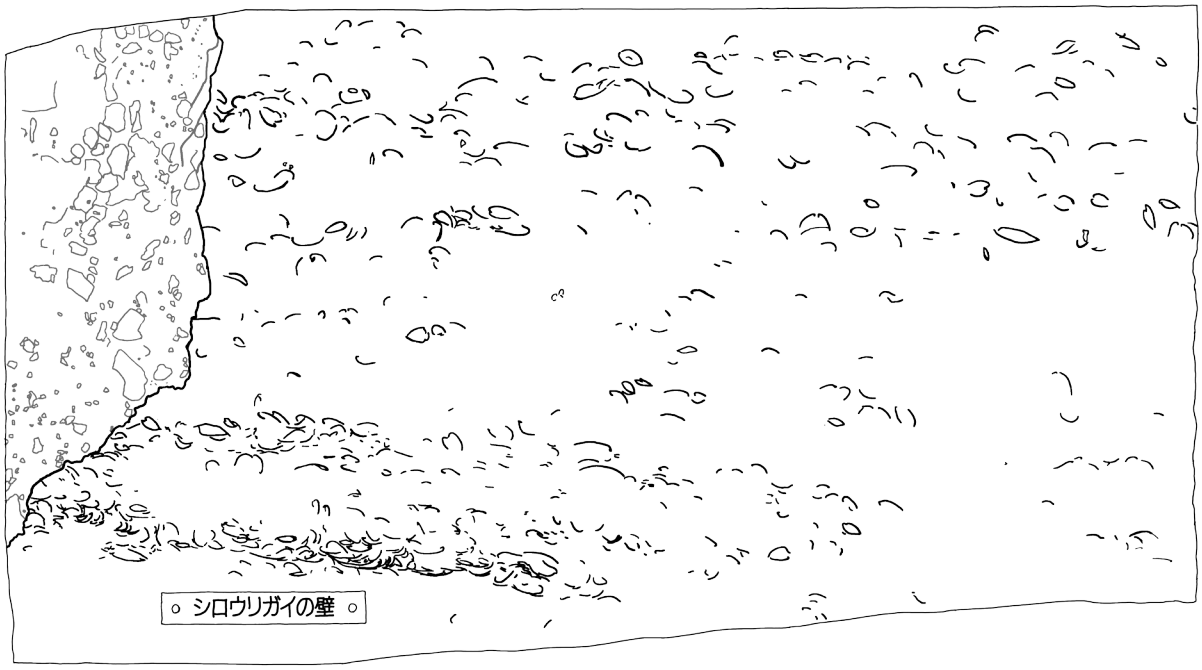

図 Ic-1-5. 剥ぎ取り標本の貝殻スケッチ（上 , 田口原図）と写真（下 , 神奈川展示室）（中村 淳氏撮影）.